

日吉台地下壕保存の会

会報

第25号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上
郵便振込(口座番号)横浜 5-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会



「第二回平和のための戦争展」の会場大倉山記念館

写真：同館パンフレットより

目次	ページ		
今年度も「平和のための戦争展」を 成功させましょう	2	日吉台地下壕見学会感想文 連載・日吉台地下壕	4
「第二回平和のための戦争展」への 想い	3	当時の関係者の思い出話(2)	6
「第二回平和のための戦争展」 準備についてご協力をお願い	3	幹事会報告	7
		「第二回平和のための戦争展」 実行委員会報告	8
		お知らせ・お願い	8

今年度も「平和のための戦争展」を

成功させましよう

事務局長 寺田 貞治

今年は、学徒出陣五〇周年にあたります。昭和一八年二月一日、神宮球場の壮行会に集った大学生たちは、ペンを捨てて銃をとり、戦場に出かけていきました。そして、多くの有為な若者たちが、南の空に海に、散っていきました。

また、一方で中国人、朝鮮人の強制連行、強制労働問題、従軍慰安婦問題など、アジアの国々から、日本の過去の戦争責任が鋭く問われています。日中戦争から太平洋戦争へと一五年にわたって続けた戦争とは、一体なんだったのでしょうか。半世紀が過ぎ、戦争体験を持つ人も減少し、戦争当時の

貴重な資料や遺跡も失われつつあります。しかし、平和を維持していくためには、あの悲惨な戦争の体験を風化させてはならないと思います。

そのためには、私たちは戦争の真相を正しく理解し、戦争の真実を語り伝えていかなければなりません。

横浜市や川崎市は、先の大戦で大空襲を受け、大きな被害を受けたにもかかわらず戦争の傷跡をどどめるものは殆どありません。日吉台地下壕や登戸研究所は、戦争の真相が凝縮した極めて貴重な遺跡であることが、私たちの調査によって明らかにされ、戦争を語る第一級の遺跡といえます。

私たちは、日吉台地下壕や登戸研究所が語る戦争の真相、真実を、多くの人々に語り伝えるために、昨年引き続き「平和のための戦争展」を開催することになりました。詳しくは、実施要項をご覧ください。

今年度は、横浜で開催しますので、横浜市教育委員会の共催と、横浜市の後援を得たいと考えております。

会員の皆様方のご賛同、ご参加を切にお願い申し上げます。

話は変わりますが、保存の会が発足して四年七カ月がたち、会員登録された人数は六百人を越えました。また、沢山の入りを地下壕に案内しました。多くの人々は、本や、映像では味わえない戦争の追体験ができ、タイムスリップした様だと話していました。

日吉台地下壕は、戦争を知らない人々に戦争の真相を語り伝えるのに格好の場所であり、何としても保存していかねければなりません。横浜市からは、史跡のための整備、保存は出来ない」と回答がありました。したがって戦争と平和を考える平和記念の遺跡として保存する道は残されています。

これからも粘り強く保存運動を進めていきたいと考えておりますので、今後ともご支援のほどをお願い申し上げます。



「第二回平和のための戦争展」への

想ひ

実行委員長 亀岡 敦子

今秋は学徒出陣に関する特別番組が様々放送されました。内容や捉え方も様々で、冷静に事実のみ伝えようとするものもあれば、情緒が前面に出ているものもありました。

どの番組にも老年を迎えたかつての学徒達の、平和への意志が感じられました。淡々と描かれたメッセージ程、私は正確に強く受け止める事が出来、私達の戦争展も情に流されない内容にしたいと心に決めました。

第二回平和のための戦争展は、来年二月、横浜市港北区大倉山で開催します。小高い丘の上に建つ大倉山記念館で、ギャラリーには写真パネルや展示品を並べ、ホールや会議室では講演会や討論会等も予

定しています。登戸研究所と日吉台地下壕に加え松代の地下壕関係者の講演もあり、又戦争体験者の方々の貴重な話も聞けそうです。八月に発足した実行委員会には前回のメンバーのほとんどが参加してくれましたし、何より嬉しいのは、高校生が十数名、加わってくれた事です。一〇代から七〇代まで、幅広い智恵と力で、大声で叫ぶのではなく、静かな声で語りかける、深い内容の戦争展にしたいと思っています。今回もテーマは「私の街から戦争が見える」です。大倉山は梅の名所でもありません。どうぞ、一人でも多くの皆様に足を運んで頂きますようお願いいたします。

「第二回平和のための戦争展」 準備についてご協力をお願い

実行委員会では、標記の件につき着々と準備をすすめておりますが、何分日常の仕事の片手間にやることとて、人手が不足しております。会員の皆様のなかでお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら、事務局の寺田までお電話ください。改めて日時のご連絡などさせていただきます。

また、遺品、資料などお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご一報いただきたく存じます。寺田までお願いいたします。

TEL. 045-562-1282

準備内容と担当責任者

写真撮影・パネル制作： 小池、渡辺、寺田

模型制作： 岡上、谷藤

パンフレット・ポスター・宣伝ビラ作成： 背戸、渡辺、寺田

講演・ビデオ・映画・遺品・資料： 渡辺、寺田

郵送事務： 全員

プレイベント： 渡辺、寺田

中高生によるシンポジウム： 大湖

日土ロムロ地下壕塚

目見学子△云感相心文入

一九九二年一月三日

神奈川県高等学校教科研究
会社会科部会歴史分科会

★とにかく驚いた。戦争を行なう場合には、これぐらいの設備はあって当然であろうが、現実に見せられると、その規模の大きさを思い知らされた。

★生れ育った所（港北区新吉田町）のすぐ近くにこれほど重大な機能を持った司令部が存在したことを一年前まで知らなかったこと（しかもフィリピンには関心があり、レイ

テ作戦のこともそれなりに知っていたが、ここが作戦司令部だったことを知らなかったこと）について自分の歴史認識の浅さを痛感させられた。
★戦争に勝つためなら手段を選ばず、短期間で当時としては素晴らしいものを作ったと

思います。

なにか目的は違うのですが、現代の我々日本人にも通じるものを暗闇の中で感じました。

★①貴重な史跡、未来に残すべき財産だと感じた。

②史料が少ないのは残念。残された時間は少ないので是非聞き取り調査をどんどん進めて欲しい。

③啓発をもっと進めて県民にもアツピールを！ 県をも動かすような運動になれば良い。

④慶応大学も保存していく方向になるためには、県と並行して推進すべきだ。

★コンクリートで丈夫に造られていてのに驚いたとともに、これだけの物を造るための莫大な費用と労力を考える時、何をか言わんどの気持である。
★異常な程のエネルギーを集めての工事、当時参加された方々の偉大さを知りました。

このエネルギーを平和に活用していたら。平和の有難さに感謝します。

★以前、松代の地下壕を見学したことがあり、大変興味深くお話をお聞きすることができました。これから少しずつ学習を深めていきたいと思えます。

★横浜市にこのような重要な戦争遺物があるとは全く知らなかったのを見学できてよかった。

具体的に戦争にふれることができ、寺田先生の話もよかったです。

★一〇年前、この近くに住んでいましたが、全く知りませんでした。あの敗戦の色濃くなった時期にわずか二カ月弱であれだけの地下壕を造ったとは全くの驚き、いかに沢山の強制労働が課せられたかと思つと本当に気の毒・・・

そして当の指揮官たちは国民が苦しい思いをしている中、自分たちだけの身の安全を考えていたのが実情ですネ。

国を守る、国民を守る軍隊とは全くのウソであったその証拠をみせつけられた思いです。

★沖繩、松代は巡検しましたが、本日は横浜市内にも、それも大学内に壕があり、本当に驚きました。

海軍の基地としての史跡はもとより、朝鮮人の強制連行としての歴史的意義について考えさせられました。

この間、吉見百穴も見学して来ましたので、今後の授業に取り入れていきたいと思いましたが。

★私たちも厚木飛行場付属の高座工廠の地下工場の調査をすすめています。その意味で大変有意義でした。今後、ご指導と交流をお願いいたします。

(5)

す。高座工廠については八〇〇〇名の台湾少年工がおり、現在、台湾にある彼らの組織、高座会と接触を保っています。市史の調査を通じて。

★個人的にはなかなか見学出来ないという聞いていましたので、今回の見学はとても嬉しく待ちどろしかつたです。先生の説明はとても興味を増すものでした。

民衆の生活と裏腹に、軍事費をこういふところに用いていたのかと考えました。勉強になりました。

★この夏に座間にある地下壕を見学しましたがコンクリートで固めてあり大規模なのに驚きました。

★日吉台地下壕見学に興味深く参加させていただきました。大切な遺産なので、是非保存活用できたら良いと思います。

★今回で二度目ですが、分厚

いコンクリートに包まれた地下壕の無機質な冷たさ、薄気味悪さには戦争や軍隊のもつ冷酷さや愚かさ、自己保身性みたいなものを感じさせられます。(自分は戦争を知らないのですが)

★戦争が人を狂わせてしまったことを雄弁に語りつづけてくれている資料だと思います。立派で、大規模であればあるほど、傷跡の深さを感じさせます。

★こんなに大きく、そして実際に使われた壕とは今回来て初めて知った。松代の壕を以前見たことはあったが実際には使われなかったと思う。

こういふ地下壕建設の時、朝鮮人強制連行の問題、いつもある。考えなければいけない問題が多い。

戦争の施設がこんな所にあつたとは！戦争のことについて

てはまだまだ知られていないことが多いと思いました。

地下壕保存に

ついののお考えを どうぞ

★少なくとも「観光」目的のものにはすべきではない。

★地下壕そのものの保存についてははしかるべき方法はないと思いますが、地下壕を説明したパンフレット発行、資料館建設(無理でしたら壕のそばに地下壕を説明した看板)

等できないものでしょうか。

★整備して広く一般に開放してもらいたい。

★市又は県で史跡として保存する。場合によっては民有地も買収しては？

★ぜひ保存していききたいものである。横浜市や国に強く働きかけていくべきであろう。

生きた平和教育の最高の教材である。

★戦争に対する戒めとして保存を希望します。

★説明板、碑などを建てる。さらに一層学習会・講演会などを推進する。壕内の整理と保存。

★ぜひ保存して、これからの子供らに語りつぎたいと思います。

★戦争と平和を最もよく理解するために低学年より見学させるとよいと思う。

★平和のための戦争遺跡として後世に残したい。

★一般公開の場を増やしたら良いと思います。

★地下壕の中に一部、当時の設備を復元し、様子がわかるようになっていたらいいと思います。

連載

口土ロム口地下壕

当時の関係者の

田心い山山話 2

日吉移転前後 2

前回の中島氏のお話に出てくる前田晃利氏にご登場願います。

前田 晃利氏の話

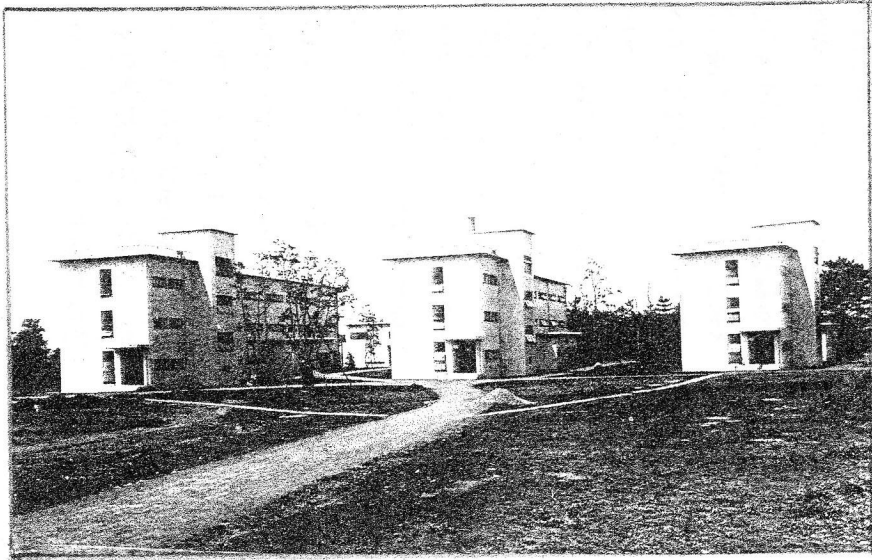
(きぎて…寺田貞治)

私は慶応大学を昭和一六年一二月に繰上げ卒業し、鐘紡に入社した。間もなく一七年一月に海軍兵科予備学生として横須賀第一海兵团に入隊、実科教育を半年受け、次いで横須賀通信学校で通信教育をうけ、一八年一月に少尉に任官、戦艦「扶桑」に乗艦した。三カ月後に横須賀通信学校の教官になり、一八年八月には「特修科学生」として通信の

高等教育を受け、一九年一月中尉に任官、司令部付となり、パラオで旗艦「武蔵」に乗込み通信参謀付となった。

しかし、それも東の間三月

には古賀長官以下多くの幕僚が戦死し、「武蔵」も損傷したため、生残った司令部員は飛行艇で帰国した。新司令部は巡洋艦「大淀」に移った。



昭和12年 寄宿舍東面を望む
慶応義塾大学日吉寮開設五十周年記念誌より

「大淀」に乗艦している時、長官に呼ばれ「軍艦が激滅したので、司令部は通信司令設備さえあればよいから上陸して、司令部に便利で秘密を守れる場所はないか」と問われ、慶応の予科時代に入寮していた日吉の寄宿舍を薦めたら、直ちに横須賀から軍令部差し回しの自動車で参謀長のお供をして日吉まで案内させられた。すっかり寄宿舍が気に入られ、司令部が日吉に来ることになった。

慶応の予科の学生時代に寄宿舍の「北寮」にいたが、再び「海軍大尉」として奇しくも同じ北寮に居住することになった。

+++++

古賀長官戦死の模様について、中島氏は次のように語っておられます。

展」プレイベントで地下壕見学会予定

「第二回平和のための戦争展」

第四回実行委員会

一〇月二二日一八時

日吉地区センター

議事決定事項あらまし

*一九九四年二月八日(火)

〜一三日(日)

*大倉山記念館

*期間中ギャラリーで展示
*一二日(土)

午前：映画、ビデオ

午後：講演

*一三日(日)

午前：戦争体験者の話

午後：中高生によるシン

ポジウム

*主な意見

①見た人がいろいろイメー

ジするようなパネルを作

りたい

②地下壕だけでなく連合艦

隊に関するものについて

もパネルを作るとよい

③遺品については地下壕の

ものでなくても、戦争の

遺品であればよい

*準備について

三ページを参照

お知らせ

旧陸軍登戸研究所見学会

日時：一二月一二日(日)

午前一〇時集合

集合場所：小田急 生田駅

改札口

参加費：五〇〇円(資料代)

ご案内：法政二高 渡辺賢二

先生

歩きやすい服装、履き物で

奮ってご参加ください。

登戸研究所とは？

秘密戦のための兵器を研究・開発・製造・技術指導する機関
1919(大正8)年設立の陸軍科学研究所にはじまり、1937(昭和12)年川崎市登戸に移転し、戦時中、中国国民政府の爆弾製造などおこなわれている。戦後、校舎となつて

お願い

★「第二回平和のための戦争展」賛同者、賛同団体を別紙の通り募集いたします。
一人でも多くの方々のご協力をお願いいたします。

★会費未納の方は同封の振込用紙でご送金くださるようお願いいたします。

予告 来年一月三日(日)

日吉区地下壕見学会

2階

